

令和七年度 第七回串本町短歌大会入賞作品

特選

○ ジェット雲一直線に空を切る 別の生き方あつただろうか

森 悅子

○ 眠りつつ空をつかむか新孫よ難しき世も健やかであれ

堀 口 和子

○ 傾きて門閉されしつる草の花芽がからむ母校なりしを

清水 雅昭

○ 久々に柚子を搾れば背後から「さんま寿司か」と亡夫の声きく

米 津りつ枝

○ 故郷の変らぬ野山の写真撮り手紙と送る施設の姉へ

石垣 実男

○ 雲間行くドクターへりに運ばれる我身見つめんしかと目を開け

田 中 美智子

○ 幼日の遠景にあるげんげ田の向こうを走る蒸気機関車

田 林 和子

○ 言ひ過ぎしを言葉に出来ずつくし摘む母の手元をただ見つめるつ

引地 貞子

秀作

佳作

○ 美しき子らの歓語聞こゆなり明年閉づとう学舎の朝に

溝内聰子

○ 手を出せば寄りくる牛の積まれ行く際の踏ん張り見ていた父子

岡田敏朗

○ オウオウと鳴く牛蛙お前もか腹の底から泣いてみたいよ

田中久恵

○ 思い出は8分音符が二度だけの休符だらけの君とのメロディー

山本温

○ いにしえの人ら石積みし段畑に父母の植えたるみかん色づく

北野惣一

○ 草ひけば貝殻ころころ転び出ぬはるかな夏の夢を留めて

中西みよ子

○ ふる里の露おく野辺に曼珠沙華米寿に逝きし弟の顕つ

西村良子

○ この庭にたれ植ゑくれしや藤袴九月こよひの月に咲き満つ

中根寿美子

○ 難聴の耳に虫の音遠くして風の色にぞ秋立つを知る

若野順子

○ 初秋の葉先に縋る空蝉の祈りのかたち我を捉ふる

籠田くみよ